



第 50 回 全国大会のご案内

担当者： 全国大会委員会

テーマ：教育システム情報学の未来に向かって～第 50 回記念大会～

<https://taikai2025.jsise.org/>

- 開催日時： 2025 年 8 月 30 日(土) ～ 9 月 1 日(月)
- 会 場： 早稲田大学 早稲田キャンパス
*対面開催（一部オンライン参加については検討中）
- 主 催： 一般社団法人教育システム情報学会
- 共 催： 早稲田大学人間科学学術院

■ 全国大会の実施方法について

第 50 回全国大会は、基本対面形式にて実施いたします。一部のオンライン参加については、検討中です。詳細な実施方法につきましては、決まり次第アナウンスいたします。

■ 大会日程（予定）

8 月 30 日（土）	
午前	プレカンファレンス
午後	オープニング(開催校挨拶), 基調講演, 50 周年記念企画, インタラクティブセッション
8 月 31 日（日）	
午前	一般・企画セッション
午後	各種表彰, 50 周年記念企画, インタラクティブセッション・学生研究特別 セッション, 懇親会
9 月 1 日（月）	
午前	一般・企画セッション
午後	一般・企画セッション, 50 周年記念企画, クロージング

(*) 大会日程は変更される可能性があります。

■ 交通アクセスについて

<https://www.waseda.jp/top/access/waseda-campus>

<交通手段>

- JR 山手線 高田馬場駅から徒歩 20 分
- 西武鉄道 西武新宿線 高田馬場駅から徒歩 20 分
- 東京メトロ 東西線 早稲田駅から徒歩 5 分
- 東京メトロ 副都心線 西早稲田駅から徒歩 17 分
- 都バス 学 02 (学バス) 高田馬場駅 - 西早稲田から徒歩 5 分 (西門から入構できます)
- 東京さくらトラム (都電 荒川線) 早稲田駅から徒歩 5 分

■ 大会までのスケジュール

原稿修正締切の後に、参加申込が開始されます。発表者には、参加申込の開始時にメールでご連絡いたします。本年も講演申込と投稿締切が同日となっております。また、投稿締切後、原稿修正期間が設けられています。

- 2025 年 4 月 10 日(木) 講演申込・投稿開始
- 2025 年 5 月 28 日(水) 講演申込・投稿締切
- 2025 年 6 月 4 日(水) 原稿修正締切
- 2025 年 6 月 5 日(木) 参加申込開始
- 2025 年 7 月 3 日(木) [発表者] 参加申込締切
- 2025 年 7 月 29 日(火) [発表者以外] 参加申込締切(郵便振替・コンビニ決済)
- 2025 年 8 月 5 日(火) 参加費納入締切(郵便振替・コンビニ決済)
- 2025 年 9 月 1 日(月) [発表者以外] 参加申込締切(クレジットカード)

■ プログラム

プログラムは変更される可能性があります。最新の状況は大会 Web サイトに掲載いたします。

○ 企画セッション

1. 先進的学習支援技術とユーザインタフェース
2. 教育における心理的安全性の必要性和課題
3. 地域 DX (メタバース, 生成 AI 等の活用) と探究学習支援
4. インストラクショナルデザインとラーニングテクノロジーの融合による
教授システム学の革新と未来
5. インスティテューショナル・リサーチ (IR) におけるデータ駆動型意思決定の進化:
教学マネジメントとデータサイエンスの融合
6. 教育 DX と実世界指向学習環境
7. 認知スキーマのモデリングと学習支援システム
8. 医療者教育における新技術活用
9. これからの学習を生み出す学習デザイン・支援システム・分析
10. 学習・教育支援における生成 AI 利活用のデザインと実践

■ 講演論文集について

第 45 回大会より CD-ROM での配布を廃止し、Web による配布のみとしております。Web 版の講演論文集は、2025 年 8 月 18 日(月)に大会参加者のみに公開され、2026 年 3 月 2 日(月)に一般公開されます。

■ 企業展示・広告の募集

企業展示・広告を募集いたします。お申し込み先など、詳細は大会 Web サイトでお知らせいたします。

■ 協賛金のお願い

大会運営のための諸費用として使用させていただく協賛金を募集しております。ご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。詳細は大会 Web サイトでお知らせいたします。

■ 大会事務局

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

一般社団法人 教育システム情報学会 全国大会委員会

E-mail : jsise-desk@bunken.co.jp (@を半角に変更してください)



「博士論文紹介」の原稿募集について

担当者： 学会誌編集委員会委員長 松浦 健二（徳島大学）

学会誌のコミュニティ・プラザ「博士論文紹介」は2021年より、各巻のNo. 3（7月1日発行）に集約をし、博士論文の紹介を総覧できる形式へ移行しました。複数の博士号取得者を一同に紹介することで「博士号取得者の研究テーマの動向を読者の皆様が一目で把握できる」「博士取得者同士が互いを知る機会として、交流を深めるきっかけとなる」などのメリットがうまれることを期待しております。

年1回に集約したことにより、寄稿依頼を年度末前後の3～4月頃とし、本誌や学会のニュース・レターなどを通じて、募集をいたします。お近くに博士号取得者や、今後学会誌掲載時に博士号取得予定者がいらっしゃいましたら、ご本人または、指導教員の立場によらず、以下の教育システム情報学会誌編集委員会担当委員のメールアドレスまで、お気軽に情報提供いただけますと幸いです。

2025年7月1日発行予定となります学会誌Vol. 42, No. 3につきましては、【2025年4月18日(金)】を原稿締切の予定とし、募集を行ってまいります。

執筆に際しては、博士論文紹介原稿用の執筆要領&原稿テンプレートをご利用ください。原稿および必要事項の提出に関してはGoogleフォームを用いて行うようにいたします。下記URLよりご利用ください。

スケジュール

原稿締切： 2025年4月18日(金)（予定）
学会誌掲載： 学会誌Vol. 42, No. 3, 2025年7月1日発行（予定）

執筆要領および原稿提出

執筆要領&原稿テンプレート：
https://docs.google.com/uc?export=download&id=1ncrIREcS_hf_2cjlcPhuI0GZVlag47aF
原稿提出（Googleフォーム）：
<https://forms.gle/s6apsfhhbxetLsvRJ9>

問い合わせ等

問い合わせ先： 教育システム情報学会誌編集委員会 担当委員 山元 翔（近畿大学）
E-mail: yamamoto@info.kindai.ac.jp
（「@」の部分は、半角の「@」に変えて下さい）



2026 年度発刊 特集論文募集

担当者： 学会誌編集委員会委員長 松浦 健二（徳島大学）

Vol. 43, No. 2 学会誌 特集「高度な対話による先進的な教育・学習システム」

論文投稿締切：2025 年 6 月 1 日（日）

2026 年 4 月 1 日 発行（予定）

大規模言語モデルに代表される生成 AI は、自然言語を介した対話型の AI システムとして急速に発展しており、あらゆる分野、領域に対して、きわめて大きく不可逆的なインパクトを与えつつあります。もとより教育システム情報学分野においては、CAI や ITS における対話システムをはじめとして、「人と機械の対話」あるいは「機械による対話の促進」などの観点による教育・学習システムは深い関心を集めてきたテーマであるといえます。一方で、教育・学習という営みにおいて、学習者と教授者、学習者同士などによるさまざまな形での対話は、授業設計、学習支援、その他さまざまな教育・学習のデザインにおいて、教育・学習の効果を高めるための重要な要素として扱われ、これに関するさまざまな研究や実践的知見が蓄積されてきたものと思われます。

これらをふまえ、本特集では、教育・学習場における「高度な対話」をできる限り広く捉え、対話型生成 AI の教育・学習への先進的な活用・実践をはじめ、対話に基づく協調的な学習に関連する教育・学習システムや学習環境の構築あるいはその教育実践、または仮想空間上での対話的教育・学習などに至るまで、高度な対話に基づく教育・学習システムの発展にまつわる論文を幅広く募集します。

1. 対象分野

対話型生成 AI の教育・学習への先進的な活用・実践、対話に基づく協調的な学習に関連する教育・学習システムや学習環境の構築あるいはその教育実践、仮想空間上での対話的教育・学習、その他さまざまな観点において、高度な対話に基づく教育・学習システムの発展にまつわる論文を幅広く募集します。

2. 論文種別

すべての種別（一般論文、実践論文、ショートノート、実践速報）の論文を募集いたします。なお、査読を通して、異なる種別での採録となる場合があります。また、内容により一般投稿論文としての掲載へ変更する場合があります。

3. 投稿要領

教育システム情報学会学会誌原稿執筆要領に準じます。詳細は教育システム情報学会の Web サイト上の「学会誌投稿のご案内」でご確認ください。投稿に際しては「特集」への投稿であることを明示して

いただきます。また、特集論文研究会（2025 年 3 月 15 日開催）で発表を行った方は、特集論文研究会での発表題目と発表番号も明示いただく予定としております。

4. スケジュール

論文投稿締切：2025 年 6 月 1 日（日）

採録通知予定：2025 年 12 月初旬まで【予定】

学会誌掲載：学会誌 Vol. 43, No. 2, 2026 年 4 月 1 日発行【予定】

5. 特集論文編集委員会

委員長：松浦 健二（徳島大学）

副委員長：後藤田 中（香川大学）

筆頭幹事：高木 正則（電気通信大学）

幹事：近藤 伸彦（東京都立大学）、山元 翔（近畿大学）、
林 佑樹（大阪公立大学）、白澤 秀剛（東海大学）

幹事補佐：吉原 和明（近畿大学）、油谷 知岐（香川大学）

委員：学会誌編集委員

6. 問い合わせ

全般：近藤 伸彦（東京都立大学） E-mail: kondo@tmu.ac.jp



Information and Technology in Education and Learning (ITEL)

論文募集 [<https://www.j-itel.org>]

日本教育工学会（JSET）との合同英文誌 ITEL（Information and Technology in Education and Learning, <https://www.j-itel.org>）への掲載原稿を募集しています。この ITEL では、我が国における教育工学・教育システム情報学の国際的な発信力を強化するとともに、国際的な共同研究・研究交流のプラットフォームになることを目指しています。研究対象は、教育システム情報に関連した領域全般はもちろん、様々な教授学習場面のための方法・技術に関する基礎研究・開発研究・実践研究等も含まれます。ITEL は、J-STAGE をプラットフォームとしたオープンアクセスジャーナルです (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/itel/list/-char/ja>)。投稿後、原則、7 か月以内に 2 回の査読が終了するように配慮しています。短期間で、革新的な研究成果、ユニークな実践等を世界に向けて発信するために活用していただければ幸いです。学位取得を目指されている方や留学生のみなさんからのご投稿もお待ちしております。

- 論文種別： 一般論文（Regular Paper, 基本 8 ページ）, 実践論文（Practice Paper, 基本 8 ページ）, システム開発論文（Development Paper, 基本 8 ページ）, ショート論文（Short Paper, 基本 4 ページで最長 6 ページまで）
<これまでのショートノート（Short Note）と実践速報（Report on Practice）を含みます>
- 投稿締切：1 年中投稿を受け付けています。
- 投稿要件：
 - ・論文は他学会において査読中でないこと、そして、その主要部分が未発表であること。ただし、国際会議、学会の大会、研究会等で口頭発表した内容をまとめたものは投稿することができます。
 - ・投稿者は本会会員である必要はありませんが、本会会員あるいは JSET 会員である場合には掲載料に会員の価格が適用されます。投稿者が 2 名以上の連名の場合は、そのうち少なくとも 1 名が会員であれば、掲載料に会員価格が適用されます。
- 原稿執筆要領：ITEL Web サイトに、執筆要領（Author Guidelines）等がアップされています。
- 投稿方法：< [ITEL 電子投稿システム] https://iap-jp.org/j-itel/journal_e/ >
 - ・ITEL Web サイト上から、電子投稿システムにログインして投稿を行って下さい。
 - ・初めて電子投稿システムを利用する場合は、まず利用者用 ID の発行手続きを行って下さい。
 - ・投稿論文は、論文執筆用テンプレートファイルを用いて PDF ファイルに出力して提出して下さい。
 - ・投稿論文は、投稿前にできるだけ英文校正（Proofreading）を受け、証明書提出を推奨しています。
- 査読方法：
 - ・投稿論文の査読は、JSiSE 英文誌と同様に、シングルブラインド制で行われます。
 - ・査読者は 2 名で、査読回数は 2 回となります（著者照会は 1 回のみ）。
 - ・評価項目は、Originality（新規性）、Usefulness（有用性）、Reliability（信頼性）、Presentation（明瞭性）の 4 項目となり、JSiSE 英文誌と異なり、査読中に投稿論文の種別変更はありません。
 - ・投稿者の希望に基づき、JSiSE 英文誌と同様、日本語で査読コメントを受けることもできます。

Editorial	Preface to Volume 4: Evolving Personalized Learning Environments Hidenobu Kunichika, Hiroki Oura
Invited Paper	Intelligent Technologies for Personalized Practice Systems Peter Brusilovsky
	Personalized Learning Environments -Core Concepts, Technologies and Practices Heinz Ulrich Hoppe, Rwitajit Majumdar, Hiroaki Ogata
	Formative Assessment and Meaningful Learning with Concept Mapping through Recomposition Tsukasa Hirashima
Regular Paper	Lack of Visual Information Implicitly Inhibits Interactivity of Virtual Discussion: The Effects of Video Presence Ryosuke Onoda, Nanako Uemura
	Evaluation of AI-Generated English Reading Comprehension Questions by Japanese Teachers of English Alexander Maas, Toru Nagahama, Tatsuya Horita
Short Paper	The Effectiveness of Situational Confirmation in Remote Verbal Communication Kaito Takashima, Yuki Yamada
Translation	The Effect of Proactive Behavior on Competence Improvement in a Workplace through Reflection: A Focus on Young Workers in the 20s Satoshi Tanaka, Megumi Ikeda, Ryohei Ikejiri, Tomoyuki Suzuki, Kaede Kido, Yusuke Tsuchiya, Ryo Imai, Yuhei Yamauchi
	The Relationship between Children's Listening Ability, Its Influencing Factors, and the Children's Academic Ability in Science Takeshi Miyauchi, Chiharu Kogo

Translation	Qualitative Study on the Promotion of Experiential Learning and Reflective Support Intended for Mid-level Employees by Managers Who Balance Organizational Performance with Employee Development Chiaki Hiromatsu, Shigeto Ozawa
-------------	--

注：Translation は，日本教育工学会論文誌に掲載された論文の一部を英訳したものです。



「ラーニングイノベーショングランプリ 2025」募集

教育システム情報学会 産学連携委員会 委員長 長谷川 忍

JSiSE が 2016 年度より共催している産学連携イベントであるラーニングイノベーショングランプリが今年度も開催されます。2025 年度もグランプリの表彰式・受賞者プレゼンテーションが、2025 年 7 月 18 日（金）に東京国際フォーラムで開催される予定です。

本グランプリは、教育や人材育成に関わる企業と、革新的な学習・教育環境を研究している高等教育機関のマッチング機会を拓けるものです。昨今、企業内教育においてはデジタル化の急速な進展を背景にラーニングテクノロジーに注目が集まり、今後は学術発の知見に対する産業界の期待も高まることが予想されます。こうしたなかで、本グランプリは産学のブリッジ役として、新たな枠組みを目指すものです。

<募集ジャンル>

ラーニングイノベーショングランプリでは、テクノロジー分野だけでなく教育実践や教授法も含めた新たな学習・教育環境の研究内容を広く募集します。

キーワード：AR, VR, IoT, AI, ディープラーニング, デバイス, プラットフォーム, 教育ビッグデータ, ラーニングアナリティクス, コンテンツ, 教育実践, 教授法, 教育分野におけるシステムの利活用, メタ認知, SRL/SDL など

ラーニングイノベーショングランプリでは、学生だけでなく若手研究者（一次審査の応募受付締め切り日の時点で 40 歳未満）からの応募も受け付けます。但し、学生または若手研究者を主とする研究室での研究に焦点をあてた企画のため、学生と若手研究者を最低各 1 名、あるいは若手研究者単独がチームの最小構成となります。

研究成果を論文評価とは異なる目で見ていただける機会であり、産業界からのフィードバックを得られる機会です。是非ご応募をご検討ください。

【スケジュール】

- 3 月下旬：公式 Web サイトオープン 応募受付開始
- 5 月 8 日（木）：応募受付締め切り（午前 11:59 締切り）
- 5 月 28 日（水）：公式サイトで一次審査結果発表
- 5 月 28 日（水）～ 6 月 9 日（月）：一次通過者動画制作期間
- 7 月 1 日（火）：公式サイトでの受賞者発表
- 7 月 18 日（金）：受賞者プレゼンテーション・表彰式（会場：東京国際フォーラム）

【公式サイト】

<https://ligp.gingerapp.co.jp/>

★これまでに受賞された研究がアーカイブス (<https://ligp.gingerapp.co.jp/archives/>) としてまとめられています。紹介動画もございますので、是非ご覧ください。

【運営体制】

主催：一般社団法人ラーニングイノベーションコンソシアム (LIC)

共催：教育システム情報学会 (JSiSE) / 特定非営利活動法人デジタルラーニング・コンソーシアム (DLC)

協賛 (予定)：学習分析学会，情報処理学会教育学習支援情報システム研究会，人工知能学会，電子情報通信学会教育工学研究会，日本教育工学会，日本情報科教育学会

協力：ジンジャーアップ (公式サイト)

運営：ラーニングイノベーションングランプリ実行委員会

プラチナスポンサー：ジンジャーアップ

ネーミングライツスポンサー：イーラーニング、サイコム・ブレインズ、東京リーガルマインド

【実行委員】

川口 泰司 : LIC / 株式会社ネットラーニングホールディングス ※実行委員長

青木 泰子 : LIC / 株式会社イーラーニング

加藤 憲治 : LIC / デジタルラーニング・コンソーシアム

前田 宏 : LIC / 株式会社ジンジャーアップ

長谷川 忍 : JSiSE / 北陸先端科学技術大学院大学

平 治彦 : JSiSE / 日本データパシフィック株式会社

米谷 雄介 : JSiSE / 香川大学



科研費申請支援制度（2025 年度春期）のご案内

担当者： JSiSE 人材育成委員会

教育システム情報学会では、次代を担う若手研究者の自立、研究活動の活性化を積極的に支援することを主旨として、科研費申請支援制度を実施しています。本学会の理事等を中心に、当該分野の科研費審査や獲得経験を有する複数のシニア研究者（匿名）が、提出された申請書に対して、主張点や論旨の明確化、焦点化など、審査員に上手に伝えアピールする視点から、採択に向けたコメントを書面で提供するものです。申請書評価の多様な見方に触れて頂くためにも、学会としてまとめることはせずコメントータからのコメントをそのまま提供します。これらを参考材料として申請者ご自身の判断の下で取捨選択しての申請書のブラッシュアップに役立てて頂く主旨のものです。学会およびコメント提供者は申請内容について守秘義務を負うものとします。なお学会およびコメント提供者は採択に関する責任を負うことはできませんので、予めご承知おきください。

本制度は若手研究・基盤研究（C）および研究活動スタート支援を支援対象とします。主として以下の分野を対象にしますが、JSiSE が学際的な領域を対象にしていることから、他の分野でもできるだけ柔軟にお受けしたいと考えていますので、下記問い合わせ先までご相談ください。

・春期支援種目：

- ・研究活動スタート支援

（若手研究・基盤研究(C)は夏期の支援を予定しています。）

・分野：

- ・「大区分 A」「中区分 9：教育学およびその関連分野」
 - ・ 09070 教育工学関連
 - ・ 09080 科学教育関連
- ・「大区分 J」「中区分 62：応用情報学およびその関連分野」
 - ・ 62030 学習支援システム関連

・申請者は学会員であることが必要です。

スケジュールは以下の通りです。ご所属機関により提出時期が異なることを踏まえ、提出期間に幅を持たせています。

○エントリー

研究活動スタート支援：3 月 31 日より

下記提出先まで電子メールにて、 代表者氏名(所属)・タイトル・応募種目・分野(大区分、小区分)をお知らせください。

サブジェクトは「JSiSE 科研費申請支援」を含む文字列でお願いします。

※エントリーがなくても申請は随時受付いたしますが、事前にエントリー頂ければコメンテータに書類を迅速にお送りできますので、結果の返送も早くなります。

○申請書提出

研究活動スタート支援：3月31日～申請者所属機関の申請書類締め切りの2週間前まで

申請書のファイル（MS-Word または PDF 形式）を下記提出先までお送りください（予算明細などの詳細まで埋めていただく必要はありませんが、よりよいコメントを提供するために、ある程度内容が固まってからご提出いただくのが望ましいと思われます）。提出いただき次第、コメンテータに申請書を送付します。

○コメントのお返し

【各コメンテータから提出があり次第、随時コメントをお返します。】

事前エントリーがあった場合申請書提出から1週間前後、ない場合10日前後の返信を予定しておりますが、事情により遅れる可能性もございますので余裕をもってお申込みください。

エントリー、申請書提出およびお問い合わせ先

JSiSE 人材育成委員会（jsise-y-support@googlegroups.com）



研究会開催年間スケジュール

担当者： 研究会委員会

2025 年度の年間スケジュールは下記の通りです。

詳細は、学会ウェブページ (https://www.jsise.org/society_research/) をご覧ください。

回	テーマ	開催日	会場	発表申込締切	原稿締切
第 1 回	DX・AI 時代の学習環境/ ヘルスケア分野の DX 人材育成 ／一般	5 月 24 日 (土)	東京都立大学 南大沢キャンパス 【現地】	4 月 10 日 (木)	4 月 24 日 (木)
第 2 回	ICT を活用した学習支援と 教育の質保証／一般	7 月 6 日 (日)	札幌市社会福祉 総合センター (札幌市中央区) 【現地】	5 月 26 日 (月)	6 月 5 日 (木)
第 3 回	多様な学習環境における動機 づけ支援：対面授業からオン ライン学習まで／一般	9 月 26 日 (金)	サイバー大学福岡 キャンパス 【現地】	8 月 15 日 (金)	8 月 26 日 (火)
第 4 回	AI 時代における学習支援 システムとデザイン／一般	11 月 16 日 (日)	Isite なんば 【ハイブリッド (予定)】	10 月 5 日 (日)	10 月 15 日 (水)
第 5 回	教育 DX と実世界指向学習環境 ／一般	2026 年 1 月 開催予定	徳島県内 【現地】	調整中	調整中
第 6 回	生成 AI と情報活用能力の育成 ／一般	調整中	調整中	調整中	調整中
特集	調整中	調整中	調整中	調整中	調整中

研究会全般に関するお問い合わせは、学会事務局までお願いいたします。



2024 年度 第 5 回研究会開催報告

担当者： 三石大（東北大学）、鷹野孝典（神奈川工科大学）、佐々木整（拓殖大学）、
高木正則（電気通信大学）、 光原弘幸（徳島大学）

■ テーマ：教育 DX と実世界指向学習環境／一般

■ 開催日：2025 年 1 月 11 日（土）

■ 開催会場：拓殖大学 文京キャンパス

■ 概要：

2024 年度第 5 回研究会は、2025 年 1 月 11 日（土）に「教育 DX と実世界指向学習環境／一般」をテーマに開催いたしました。本研究会のテーマである“教育 DX”や“実世界指向学習環境”に関するシステム開発や実践等の様々な研究について計 15 件の発表がなされました。ここでは、AI やサイバー空間の活用、学修データ分析といった新しい学習・教授法や評価方法に関する研究成果が共有され、全国から 50 名近い参加のもと活発な討論が行われました。また、通常のセッションとは別に、教育システム情報学会創設 50 周年記念事業研究会イベントとして“新しい大学のカ・タ・チ -IT で変わるこれからの教育を考える-”と題し、講演会およびパネルディスカッションを開催いたしました（別途報告）。最後に、発表者や参加者の皆様のご協力により円滑に研究会を進行することができました。この場を借りて担当委員より御礼申し上げます。ありがとうございました。

■ 発表タイトル一覧：

- AI を活用した発話データ解析によるグループワーク授業評価システム開発に向けた基礎研究
- RAG 機能付き AI エージェントの学習支援ツールとしての可能性
- データサイエンス教育の学修目標の達成を評価するテストの開発
- 学年別学修データに基づく学生の特徴把握と問題発見
- 人間的力量育成科目の体系化に向けた科目のマッピングの試み
- ハッカソン・アイディアソンの要素を含む新たなテクノロジー体験型授業への取り組み -教養教育科目「AI・デジタル社会の歩み方」における実践
- 大学生の下肢筋力トレーニング促進のためのランナーゲーム開発 -ロコモティブシンドローム予防にむけて-
- AI によるソーシャルワーク教育の実習日誌の評価及び指導に関する可能性と実用化に向けた課題
- ビデオカメラを用いた疲労感推定に有効な行動指標の検討
- “体験”を引き出す ICT 保育教材デザインとその展望
- 中学校数学科における情報端末を用いた問題解決に対する認識の変容：学習支援アプリ“MetaMoji Classroom”を活用して
- ネパールの日本語学校とのオンライン学習交流実践と考察

- プロジェクト型学習支援ロールプレイ教材の業務訓練への適用－教材提供による第三者実施－
- 『サイバー自習室』における「Co-presence」に関する検討
- デザイナー志望の学生を対象としたデザイン・コンペを特徴とする授業の設計と実践－コンペのシナリオと役割分担の観点から－



創設 50 周年特別事業 第 5 回研究会イベント 「新しい大学のカ・タ・チ-IT で変わるこれからの教育を考える-」 実施報告

担当者：第 5 回研究会担当委員

令和 7 年 1 月 11 日(土)に、教育システム情報学会創設 50 周年特別事業 第 5 回研究会イベント「新しい大学のカ・タ・チ -IT で変わるこれからの教育を考える-」(共催：拓殖大学理工学総合研究所)を、拓殖大学文京キャンパス E 館 後藤新平・新渡戸稲造記念講堂および Zoom によるハイブリッドで開催いたしました。

この記念事業は、記念講演とパネルディスカッションの二部構成で行われ、記念講演では「オンライン大学教育と未来への期待」と題し、新しい教育システムとオンラインが導く今後の大学教育・研究の可能性について本年 4 月に開学する ZEN 大学学長、九州大学名誉教授、NTT 基礎数学研究センタ総括・研究プリンシパルの若山正人先生にお話しいただきました。

続くパネルディスカッションでは、武蔵野大学の鈴木克明先生をモデレーターとし、サイバー大学の安間文彦先生、東京通信大学の加藤泰久先生、信州大学の不破泰先生、ZEN 大学の若山正人先生の 4 名をパネリストとして、各大学での特色を中心にオンライン大学を取り巻く社会や技術の状況などの報告がなされ、オンライン大学の理想と現実について来場者の方々と共に深い議論がなされました。

残念ながらインフルエンザの流行と重なり、直前で参加できない旨のご連絡が複数ありましたが、本学後藤新平・新渡戸稲造記念講堂での参加が 57 名、オンライン参加が 84 名(最大同時接続は 62 名)の計 141 名の参加を賜り、オンライン教育を含む今後の教育に対する非常に深い洞察となる機会として、盛況のうちに終了できました。また、会場近くで開催された懇親会にも非常に多くの方の参加があり、様々なクラフトビールを味わいながら、ご講演頂いた先生方を囲んでの熱い議論が終始展開されました。

ご講演頂いた先生方、現地・オンラインでご参加頂いた皆様、そして会場設営等で多大なご協力を頂きました拓殖大学職員の皆様にこの場をお借りして感謝申し上げます。

関連 URL

研究会イベント「第 5 回研究会」

[https://50th.jsise.org/研究会イベント/第 5 回研究会](https://50th.jsise.org/研究会イベント/第5回研究会)

ZEN 大学 教育システム情報学会に若山学長が登壇 講演「オンライン大学教育と未来への期待」

<https://zen.ac.jp/news/20250111jsise>

サイバー大学 教育システム情報学会(JSiSE)の 50 周年記念企画に安間教授が登壇しました

<https://www.cyber-u.ac.jp/information/y250121.html>

東京通信大学 情報マネジメント学部 加藤 泰久教授が「教育システム情報学会」の研究会でパネラとして登壇しました

<https://www.internet.ac.jp/media/media-113981/>

拓殖大学 教育システム情報学会 50 周年記念事業企画を開催しました

https://www.takushoku-u.ac.jp/newsportal/cat811/cat811_250128_19941.html



2024 年度 第 6 回研究会開催報告

担当者： 浅羽修丈（北九州市立大学）、尾崎拓郎（大阪教育大学）、鷹岡亮（山口大学）、
永田奈央美（静岡産業大学）、西端律子（畿央大学）、長谷川理（武蔵野大学）、
林雄介（広島大学）、三井一希（山梨大学）、森祥寛（金沢大学）山本樹（文部科学省）

■ テーマ：情報活用能力から情報 I・II とデータサイエンス教育への橋渡し／一般

■ 開催日：2025 年 3 月 15 日（土）

■ 開催会場：東北大学 川内キャンパス

■ 共催：東北大学データ駆動科学・AI 教育研究センター

■ 概要：

2024 年度第 6 回研究会は、2025 年 3 月 15 日（土）に東北大学川内キャンパスにて 2025 年 1 月に開催いたしました。令和 7 年度大学入学共通テストから「情報 I」が出題科目となり、情報教育への社会的な関心が高まってきています。また、学校種を問わず数理・データサイエンス・AI 等を適切に活用する基礎的能力を育成することが求められるようになっていきます。このような状況の中、デジタル人材育成のための基盤として、情報活用能力育成からデータサイエンス教育の充実を図るために、高等学校段階で担保すべき情報教育の内容や高等教育段階における情報教育の内容の円滑な接続が求められていることから、「情報活用能力から情報 I・II とデータサイエンス教育への橋渡し／一般」をテーマとしました。

このテーマ に関する研究発表が数多く報告されましたが、それに加えて、「学習支援システム」、「学習コンテンツ」、「生成 AI 活用」をキーワードとするさまざまな研究発表がありました。参加者は 75 名、発表件数は 36 件と多くの方にご参加いただきました。各セッションでは聴講されている方からの質問も多くあり、闊達な議論が行われました。また、通常のセッションとは別に、教育システム情報学会創設 50 周年記念事業研究会イベントとして「Slow Thinking で考える情報活用能力の育成」と題し記念講演と記念対談を開催いたしました。

最後に、各研究発表セッションでは聴講されている方からの質問も多くあり、闊達な議論が行われました。発表者や参加者の皆様にこの場を借りて深く感謝いたします。

■ 発表タイトル一覧：

- 性格別応用ベイズ項目反応理論・数量化 4 類におけるデータサイエンス能力の傾向分析
- 子宮頸がん予防啓発の効果～検診および HPV ワクチン接種勧奨を通して～
- 大学生の高血圧予防意識改善を目的とした LINE チャットボットと PHR システムの活用
- 教科「情報」の大学入学共通テスト導入に伴う高校生の情報の受験勉強に関する調査報告
- 触覚点字カードとスマートフォンを活用した適応型点字自己学習支援システムの開発
- 数学学習における解法の構造理解と再利用を可能とする学習手法の提案と学習支援システムの開発と評価

- 知的徳の育成を目的とした生成 AI と子どもの哲学の実践を行うためのシステムの開発と評価
- 誤り探索活動の支援機能を有する力学 Error-based Simulation(EBS) の評価
- 誤りの認識を目的としたギターのコード演奏技術向上支援システムの開発と評価
- 就職活動を題材とした意思決定の納得感向上を支援するシステムの開発と評価
- 情報 I 「(2)コミュニケーションと情報デザイン」における構造化シナリオ作成支援シートの実践
- YOLO の画像解析と任天堂 Switch の巻き戻し機能を活用したゲームのプレイ体験向上支援システムの開発と評価
- 教師と学習支援者が連携して児童・生徒に指導できる遠隔 TT 支援環境の開発
- 発表者のスキルに応じたプレゼンテーション練習のための聴講者ロボット制御システムの構築
- 他者の研究フレームの読み取りに基づいた研究知識醸成支援システム
- オンライン・プレ・バズセッションとそのリフレクションから推測されるグループおよび学習者毎の概念の想起と再構築
- A Training and Support System for Three-Point Shooting for Basketball Beginners
- 符号化視点とモデル化視点で情報表現を捉える実世界指向型教材：くるくるの提案
- コズミックレイ・エアシャワーの VR コンテンツを用いた科学館展示/小学校授業での運用について
- 段階的模写と描写変更による他者作品からの感性表現技法発見支援システム
- ナラティブ・セラピスト・エージェントのオルタナティブ・ストーリー作成支援のための対話戦略の提案
- 講義ロボットの有するパーソナリティへの共感による講義へのエンゲージメント促進
- 継続的な議論のための研究ミーティング資料作成を支援するコンテンツ推薦システム
- 人型ロボットによる体験学習を活用したうつ病の偏見解消教育プログラム
- 社会人を対象としたサイバーセキュリティ教育におけるペネトレーションテスト演習シナリオの再設計
- AI 基礎教育における学生による AI 活用提案演習の実践と課題
- 物理分野における機械学習を利用した実験教材の開発
- 『サイバー自習室』の着想を得た「Study with Me」に関する研究
- 目標遂行活動を機会とした自己調整スキル育成システム
- 資料の論理構造に基づく議論活性化支援システムの開発
- 思考蓄積基盤に基づく思考プロセス内省支援システムの開発—研究諸活動を対象として—
- 子どもの SNS 使用の問題 —うわさの復権—
- アウトプット主体の学びを促すための学修成果物共有基盤を活用した学習設計の検討
- 広域通信制高校の特性を活かしたデータサイエンス教育の実践
- スキル習得時の熟達のモデル化及び力覚デバイスを用いた教育支援
- GeoGebra を活用したオンラインテスト問題開発とログデータ分析の試み

■ 企画セッション：

- 産学連携委員会企画：企業セッション



創設 50 周年特別事業 第 6 回研究会イベント 「Slow Thinking で考える情報活用能力の育成」 実施報告

担当者：第 6 回研究会担当委員

令和 7 年 3 月 15 日(土)に、教育システム情報学会創設 50 周年特別事業 第 6 回研究会イベント「Slow Thinking で考える情報活用能力の育成」を、東北大学川内キャンパス C 棟 200 教室および Zoom によるハイブリッドで開催いたしました。

この記念事業は、講演と対談の二部構成で行いました。記念講演では西野和典先生（太成学院大学）から、社会的立場の違いによる「情報活用能力」の捉え方の違い、高等学校情報科の礎の研究、学習指導要領から見る高等学校情報科教育の変遷お話を、現在の共通科目情報の「情報 I」での学習内容と Slow Thinking を意識した教育との関係をお話いただきました。

続く記念対談では、香山瑞恵先生（信州大学）が、西野先生のご講演に対する質問・コメント、各大学でのデータサイエンス教育との関係、Slow Thinking と情報教育・情報活用能力について、zoom のチャットで収集した質問・コメントを含めて深い議論がなされました。

特集論文研究会参加の皆様も含めて教室多くの参加を賜り、今後の情報教育・情報活用能力の育成と Slow Thinking に対する非常に深い洞察となる機会として、盛況のうちに終了できました。

ご登壇いただいた西野先生、香山先生、現地・オンラインでご参加頂いた皆々様、そして会場設営等で多大なご協力を頂きました東北大学教職員の皆様にこの場をお借りして感謝申し上げます。





2024 年度 特集論文研究会 開催報告

担当者： 学会誌編集委員会幹事 近藤 伸彦（東京都立大学）

- テーマ： 高度な対話による先進的な教育・学習システム
- 開催日： 2025 年 3 月 15 日（土）
- 会場： 東北大学川内キャンパス
- 発表件数： 16 件（閱讀希望：13 件）
- 参加者数： 52 名

■ 研究会当日に関する報告

今年度は、第 6 回研究会との共同開催となりました。第 6 回研究会とあわせて 7 パラレルでのプログラム構成のもと、特集論文研究会としては 6 つのセッションが成立し、たいへん盛況となりました。今年度は「高度な対話による先進的な教育・学習システム」のテーマのもと、生成 AI を活用した研究をはじめ、時節を得た 16 件の興味深いご発表をいただきました。ご発表、ご参加、ご議論いただきましたみなさまに加え、有意義な議論を導いてくださいました座長の先生方、優秀賞審査にあたっていた審査委員の先生方、閱讀コメント作成に尽力いただいた閱讀委員のみなさま、そして運営にご尽力いただいた現地校のみなさまに、心より感謝申し上げます。

■ 特集論文研究会における閱讀について

本特集論文研究会は、学会誌特集との連動企画となっております。今回の特集については、本ニューズレターの別記事をご参照ください（論文投稿の締切は【2025 年 6 月 1 日（日）】です）。

本研究会では、希望者に対して、特集論文の投稿に向けた閱讀コメントをお返ししています。より良い閱讀コメントをお渡しできるように、当日の発表内容を録画させていただき、これも閱讀の参考にさせていただいております。また、発表者には研究報告原稿の他に、発表する研究について「リサーチクエスチョン」「新規性」「有用性」「信頼性」の各主張点（論文投稿におけるカバーレターの内容に相当）をまとめて事前に提出をいただき、それらの点も閱讀時に参考にさせていただいております。発表者のみなさまは、ぜひ閱讀コメントを参考に、6 月 1 日締切の特集論文へのご投稿をいただければ幸いです。

《閱讀の流れについて》

1) 閱讀コメント担当者は、1 編に対して 2 名

① 閱讀者に事前に論文を送付

② 閱讀者は当日の発表あるいは録画映像を踏まえて閱讀コメントを作成

2) 閱讀コメントは 2025 年 4 月 14 日（月）までに送付



2024 年度学生研究発表会開催報告・優秀賞のお知らせ

担当者： 人材育成委員会

2024 年度 JSiSE 学生研究発表会は、2024 年 2 月後半から 3 月中旬にかけて、北海道、北信越、関東、東海、関西、中国、四国、九州・沖縄の地区で、各支部主催により開催されました。発表総件数は 132 件、参加者数は 317 名と、各会場とも盛況な研究発表会となりました。各地区の優秀な発表については、優秀賞として選定されています。

各地区の学生研究発表会の参加者数および発表者数、ならびに受賞リストは以下の通りです。

学生研究発表会開催状況

地区	地区担当者	開催日	発表件数	参加者数
北海道	山本 裕一（北海道大学）	2025 年 3 月 16 日（日）	8（口頭のみ）	28
北信越	本吉 達郎（富山県立大学）	2025 年 3 月 1 日（土）	8（口頭のみ）	65
関東	小島 一晃（帝京大学）	2025 年 2 月 27 日（木）、 28 日（金）	14（口頭のみ）	24
東海	神谷 勇毅（岐阜市立女子短期大学）	2025 年 2 月 28 日（金）	16（完全オンラインとして開催）	30
関西	河野 稔（兵庫大学）	2025 年 3 月 4 日（火）	25（口頭 11、ポスター 14）	55
中国	岡本 勝（広島市立大学）	2025 年 2 月 22 日（土）	26（口頭のみ）	53
四国	米谷 雄介（香川大学）	2025 年 3 月 11 日（火）	24（口頭 12、ポスター 12）	30
九州・ 沖縄	久保田真一郎（熊本大学） 小渡 悟（沖縄国際大学）	2025 年 2 月 28 日（金）	11（口頭のみ）	32

優秀賞（優秀発表賞・優秀ポスター発表賞）

地区	受賞者氏名	受賞者所属	タイトル
北海道	吉岡 翔太	函館工業高等専門学校	文章生成 AI を活用した英語コミュニケーション学習支援システムの設計
	高梨 美雪	大阪工業大学	仮想教室を活用した新任教員の生徒指導における知識習得システムに関する研究
北信越	宮崎 勇希	富山県立大学	タンジブルなプログラミングツール Logi-CUBE への推論機能の実装と評価
	朴 時穩	信州大学	モデリング学習支援環境における小学生のモデリング過程についてのプロセスマイニングによる基礎的検討

関東	榎本 尚輝	早稲田大学	多視点的アプローチによる人の内面的要因と第一印象形成との関連性のモデル化
	北嶋 太一	電気通信大学	面接試験の観点別自動評価のためのマルチモーダル深層学習自動採点モデルの開発
	永井 優成	電気通信大学	誤答選択肢の作成方略を与えた大規模言語モデルに基づく多肢選択式問題の誤答選択肢自動生成手法
東海	伊藤 明日歌	名古屋大学	数式自動採点システムの解答データを用いた Bayesian Knowledge Tracing による理解状況分析
	井村 翔	静岡大学	自然言語文中に含まれる数式記号の意味推定の試み
	清水 敬亮	静岡大学	医学系対訳コーパスを使用した Web アプリケーションの機能拡張
	和田 愛未	信州大学	平均歩行速度が異なる高齢者 2 群における歩行時の時系列データの特徴に関する基礎的検討
関西	野村 優翔	大阪府立大学	メンタルローテーション能力向上のための図形学習アプリの開発 (*)
	森 省太 他 2 名	神戸市立工業高等専門学校	音階認知と生体反応測定 of 認知機能低下抑制への応用 —音階認知の定量評価システム開発と 40Hz 音刺激効果分析への応用— (*)
	西村 祐真	大阪工業大学	OIT 梅田メタバース・キャンパスを活用した避難訓練アプリケーションの開発 (*)
	中野 晴	近畿大学	画像解析による表情推定に基づく In-process feedback の実装と試験的評価
	田中 愛梨	追手門学院大学	プログラミング入門教育におけるブロック型プログラミング教材の作成
中国	濱田 恭佑	広島大学	再構成型学習環境における理解変化の推定のための学習ログデータからの 質的・量的なエラー分析
	藤田 一輝	広島大学	SAFI 方式との比較による Kit-Build 概念マッピングにおける構造的学習効果の検証
	大下 高輝	広島大学	再構成型概念マップにおける生成的キットを用いた予測的組立の促進と評価
	木村 達也	広島大学	再構成型概念マップにおける共有理解概念マップの協調的作成過程の分析とその支援に関する研究
	植田 昭夫	広島大学	誤謬変換を用いた論証再構成による論証吟味法の提案と実験的評価
	前土井 光章	広島大学	言語的・形式的三角ロジック差分吟味法における論証課題作問演習の設計

四国	安富 碧月	香川大学	日報の形態素解析に基づき記録動画を着目させる技能教育支援システム開発
	松本 優	香川大学	大学生生活理解を促進するロールプレイ要素を用いたボードゲームの評価
	村田 一真	徳島大学	スペーシングに基づくシュート判断の学習支援環境
九州・ 沖縄	山口 昂大 他 6 名	熊本県立大学	児童を対象とした食育支援アプリケーションの開発
	神谷 大智	沖縄国際大学	大学オープンキャンパス向け WebAR システムの開発

*は優秀ポスター発表賞である。なお四国地区は、全発表が口頭発表とポスター発表を行っている。



研究会報告年間購読の申し込みについて

研究会報告は、2016年度からは印刷媒体での研究会報告は廃止し、オンライン上でタイムリーかつオンデマンドな閲覧が可能となるように、研究会報告を電子化しています。保管などの手間もなく、大変便利に活用できるようになっております。

是非、研究会報告の「年間購読」のお申し込みをご検討いただければ幸いです。研究会当日も電子媒体として販売する予定ですが、年間購読がお得になっております。

- ・年間購読:4,000 円（定例研究会年 6 回，特集研究会 1 回，計 7 回分を含む）
- ・当日販売:1 冊 1,000 円

新規での「年間購読」申込みにつきましては、年会費をお支払いいただく前に会員種別変更申込をお願いします。以下の手順でお申し込みください。すでに年間購読をしていた方は手続き不要です。

- 1) 年会費納入手続きの前に、下記フォームにて事務局（secretariat@jsise.org）まで年間購読申込をしてください。

=====

※研究会報告年間購読希望
会員番号（お分かりであれば）：
お名前：
所属：
連絡先 e メールアドレス：
=====

- 2) 手続き終了後、事務局より会員種別変更完了のご連絡を差し上げます。
- 3) マイページから年会費と合わせて年間購読費をお支払いください。

※年会費納入後に「年間購読」を申込みご希望の場合は、事務局（secretariat@jsise.org）までご連絡ください。年間購読の請求書をお送りし、会員種別変更の手続きを進めさせていただきます。



JSiSE の過年度刊行物の【半額】での販売について

教育システム情報学会では、2024 年 41 巻 1 号以前に発行された過年度刊行物の在庫を整理することになりました。これに伴い、現時点で在庫があるものについては定価の【半額】でお譲りいたします。ただし送料は購入者様にてご負担をお願いいたします。

本会が公式に販売する最後の機会です。ぜひ購入をご検討ください。

対象となる刊行物および販売価格は次の通りです。なお、販売開始時点で在庫がないものもございます。ご注文いただいた順に手続きをいたします。万が一在庫切れの際にはご容赦くださいますようお願いいたします。

1. 【紙媒体】教育システム情報学会誌 1 冊あたり定価 3,300 円→1,650 円（税込）1995 年 12 巻 1 号から 2024 年 41 巻 1 号
2. 【紙媒体】The Journal of Information and Systems in Education（英文誌）1 冊あたり定価 3,300 円→1,650 円（税込）2002 年 1 巻 1 号から 2010 年 11 巻 1 号
3. 【紙媒体】教育システム情報学会 研究報告 1 冊あたり定価 1,100 円→550 円（税込）1996 年度第 2 回から 2015 年度第 7 回
4. 【CD-ROM】教育システム情報学会 研究報告 1 枚あたり定価 1,100 円→550 円（税込）2017 年度第 1 回から 2019 年度第 5 回
5. 【紙媒体】教育システム情報学会全国大会講演論文集 1 冊あたり定価 6,600 円→3,300 円（税込）2003 年度第 28 回，2005 年度第 30 回

ご注文は以下の URL よりお願いいたします。

<https://forms.gle/i9tpbn3EiMNWJP8W6>

お問い合わせは、刊行物の販売・管理委託先である毎日学術フォーラム(maf-sales***navi.jp)までお願いいたします。メール送信時には***をアットマークに置き換えてください。

販売に直接関係しないその他のお問い合わせは、学会事務局までお願いいたします。

北 信 越 支 部 よ り 活 動 報

2024 年度北信越支部学生研究発表会開催報告

担当者：本吉達郎（富山県立大学）

森下 孟（信州大学）

2024 年度北信越支部学生研究発表会は、3 月 1 日（土）に、信州大学長野（教育）キャンパスで対面開催されました。本研究発表会は、電子情報通信学会 ET 研究会との並列開催。8 件の申込みがあり、65 名が参加、その中から優秀発表 2 件及び年次大会への推薦 1 名を選ばせていただきました。

優秀発表：①タンジブルなプログラミングツール Logi-CUBE への推論機能の実装と評価

○宮崎 勇希（富山県立大学大学院）・本吉達郎（富山県立大学）・ほか 6 名

②モデリング学習支援環境における小学生のモデリング過程についてのプロセスマイニングによる基礎的検討

○朴時穩（信州大学）・香山瑞恵（信州大学）・ほか 3 名

今回の研究発表では小中高校生向けの体験デジタル教材やプログラミング教育に関する研究課題がみられました。具体的には、コズミックレイ・エアシャワー体験 VR アプリの運用や、日本の伝統色とその製法について学ぶ VR 教材、声楽習熟者における歌唱中の腹部及び胸部運動の傾向、児童生徒の振り返り評価に関する多角的観点の検討や、機械学習を活用した学校におけるクラス分け自動化システムの提案がなされ、どれも実用的で有意義な研究成果が報告されました。

2024 年度の学生研究発表会は、昨年度（2023 年度）から引き続いての対面開催といたしました。オンラインを併用したハイブリッド開催も会員の皆様からのお声にはありましたが、やはり対面開催による普段お会いできない方々の顔をみた交流、特に研究会後の情報交換会は非常に盛り上がり、本来あるべき研究会の姿を再び見ることができました。たしかに参加者数の確保は課題ではありますが、今回のような他学会や研究会との連携・協力でお互いの良さを活かしながら、引き続き対面による交流を大切に、今後の学生研究発表会の可能性を探って参りたいと思います。



関東支部より活動報告

学生研究発表会（関東地区）開催報告

2024 年度 学生研究発表会関東地区実行委員

2024 年度 JSiSE 学生研究発表会（関東地区）は、2025 年 2 月 27 日から 28 日にかけて、神奈川県湯河原ホテルあかねにて、昨年に続き合宿形式にて開催されました。主なイベントとしては、口頭発表（14 件）、ナイトセッション（研究討論）が実施されました。本年度は 3, 4 年生の多くの学生の発表が活発に行われました。中には初めての学会発表の方もおり、緊張をしながらも自分の研究の魅力を的確に説明している様子も見られました。ナイトセッションでは、学生研究発表会（関東地区）の企画として、2 名の研究者による書籍紹介が行われ、書籍に絡めて、研究の理念や進め方などが講演されました。その後は各自の研究や研究領域全般についての議論が行われるなど、濃密な研究討論が行われる会となりました。学生自身の研究についての理解が深まると同時に、学生間および学生と教員間での交流が深まりました。特に、異なる大学の学生間での交流も活発に行われ、学生にとって視野を広げる良い機会になったようです。



（写真）口頭発表の様子



（写真）集合写真



（写真）企画の様子(1)



（写真）企画の様子(2)

関東地区では今後も、学生研究発表会としての企画を検討していく予定です。是非、皆様のご参加お待ちしております。

以上

広報からのお知らせ



ニュースレター発行回数変更のお知らせ

2024 年度より、ニュースレターの発行は年 4 回となります。研究会の開催時期と異なるため、今後は、年間スケジュールおよび開催報告のみの掲載となります。開催案内と講演募集につきましては、学会 Web サイトでご確認ください。



X (Twitter) アカウントの紹介

2016 年 8 月下旬より、全国大会開催に合わせて学会の公式 X (Twitter) アカウントを開設しました。本アカウントは原則として当学会の広報を目的とした配信専用としております。本学会へのご質問・お問い合わせは、学会事務局 (secretariat@jsise.org) へお願いします。

<https://twitter.com/JsisePr>



Facebook ページもご覧ください

教育システム情報学会の公式 Facebook ページを運用しています。本ページでは、論文・発表募集や本学会に関連するイベントの情報などをお届けしています。ぜひ、ご覧下さい。

Facebook ユーザの方は、ぜひ、「いいね」をお願いいたします。

<https://www.facebook.com/jsise.org/>

X (Twitter)、Facebook への情報掲載の依頼などは学会事務局 (secretariat@jsise.org) までお問い合わせください。



他団体 協賛・後援イベントのお知らせ

後援：「第6回学力向上アプリコンテスト」

日時：2025年4月1日（火）～2025年11月15日（土）

会場：表彰式は UEC アライアンスセンター100 周年記念ホールにて開催

協賛：「2025 年度工学教育研究講演会」

日時：2025 年 8 月 27 日（水）～29 日（金）

会場：京都大学桂キャンパス

協賛：「第 27 回日本感性工学会大会」

日時：2025 年 9 月 17 日（水）～19 日（金）

会場：タワーホール船堀



国際会議のご案内

- 2025 年 4 月開催

ICIET:2025 13th International Conference on Information and Education Technology

開催期間 : April 18-20, 2025

開催地 : Fukuyama, Japan

URL: <https://www.iciet.org/index.html>

- 2025 年 7 月開催

AIED 2025 26th International Conference on Artificial Intelligence in Education

開催期間 : July 22-26, 2025

開催地 : Palermo, Italy

URL: <https://aied2025.itd.cnr.it/>

- 2025 年 12 月開催

ICCE 2025: The 33rd International Conference on Computers in Education

開催期間 : December 1-5, 2025

開催地 : Chennai, India

URL: <https://icce2025.study.iitm.ac.in/>



会費納入のお願い

学会の運営は皆様の年会費で支えられております。今年度の年会費が未納の方はご入金をお願いいたします。なお、10月以降に年会費が未納の場合、学会誌の送付が一時休止されます。入金確認後、入金日の翌月末までに今年度内の未送付分も合わせて学会誌の送付を再開いたします。3月末までに入金を確認できない場合は、未送付分の学会誌はお送りできなくなりますので、お早めにお手続きをお願いいたします。

URL <https://bunken.org/jsise/mypage/Login>

※会員専用ページのURLは、会員情報管理システムの業務委託をしている株式会社国際文献社のものです。

- 「銀行振込」をご希望の方は、下記のいずれかの口座へお振込みをお願いいたします。

■振込先

◆ゆうちょ銀行

口座記号番号：00180-6-709632

加入者名：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ)キョウイクシステムジョウホウガッカイ

※他金融機関からゆうちょ銀行に振込む場合

銀行名：ゆうちょ銀行（金融機関コード：9900）

店名：〇一九 店（ゼロイチキユウ店） 預金種別：当座 口座番号：0709632

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ)キョウイクシステムジョウホウガッカイ

◆三菱UFJ銀行（金融機関コード：0005）

店名：上新庄支店（カミシンジョウ支店）

預金種別：普通 口座番号：0142708

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ)キョウイクシステムジョウホウガッカイ

◆みずほ銀行（金融機関コード：0001）

店名：茨木 支店（イバラキ支店）

預金種別：普通 口座番号：1399483

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ)キョウイクシステムジョウホウガッカイ

- 請求書・領収書（支払い後）は、マイページでオンライン発行できます。
- 請求書・領収書の郵送をご希望の方は、事務局（secretariat@jsise.org）までご連絡ください。

※団体名でお振込みいただきますと、個人を特定できない場合がございますので、振込名に会員番号またはお名前をご入力いただくか、難しい場合は、振込内容を事務局までご連絡いただければ幸いです。
※所属が変わった方は、マイページにログインした際に、連絡先などを変更するようお願いいたします。

【過年度年会費を支払われていない方へ】

マイページでは、全ての年度の未納金額を合算した金額が請求されます。先に本年度以前の分のお支払いを希望される方は、先に郵送された払込用紙付請求書をご利用になるか、学会事務局（secretariat@jsise.org）までご連絡下さい。

※会費のお支払いが確認できない場合、学会からの送付物を停止させていただく場合があります。また、会員資格停止の手続きを進めさせていただく場合があります。

ご不明な点は、事務局（secretariat@jsise.org）までお問合せ下さい。

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター
Tel:03-6824-9376 Fax:03-5227-8631 Email : secretariat@jsise.org



事務局より



会員専用ページのご案内

URL : <https://bunken.org/jsise/mypage/Login>

※会員専用ページの URL は、会員情報管理システムの業務委託をしております株式会社国際文献社のものです。

■会員専用ページでは、以下のことができます。

1. 会員個人ページでの、現在の登録情報の確認・変更
2. 年会費納入状況の確認
3. 会費の納入、クレジット/コンビニ決済
4. パスワードの変更

会員種別、フリガナ、研究報告年間購読の登録等はマイページでは変更できませんので、お手数ですが JSiSE 事務局会員窓口（secretariat@jsise.org）までご連絡をお願い致します。

ログインには、ID とパスワードが必要です。

パスワードをお忘れになった場合は、上記ウェブサイトにて照会できます。何かご不明な点がございましたら、JSiSE 事務局会員窓口（secretariat@jsise.org）までご連絡ください。

今後とも教育システム情報学会の活動にご理解ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



入会のご案内

入会をご希望の方は、下記のサイトよりオンライン入会申込フォームにアクセスしていただき、お申し込みをお願いいたします。

URL : <http://www.jsise.org/admission/index.html>

☆キャンペーン☆

※現在、本学会開催の研究会等で、会場にて新規お申し込みいただいた方には、**入会金を無料**にさせて頂くというキャンペーンを行っております。
そちらも、合わせてご案内いただきますようお願いいたします。



新入会員のご紹介

下記の 10 名の皆様が新しく入会されました。（2024 年 12 月 27 日～2025 年 3 月 25 日）

本学会での益々のご活躍を期待しております！

会員名	会員種別	会員名	会員種別
許勢 仁美	正会員	坂本 誠	学生会員（購読）
谷内 祐樹	正会員	三井 規裕	正会員
金子 洋美	正会員	河居 貴司	学生会員
菅野 崇行	正会員	荒平 高章	正会員
佐藤 新太郎	正会員（初中等・購読）	垣永 渉	学生会員